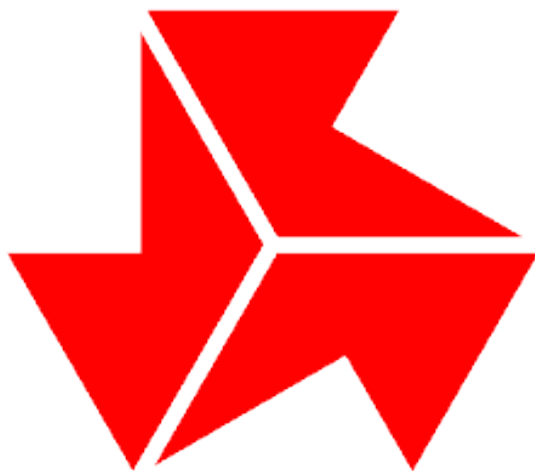


令和5年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会
高円宮賜牌 第56回全国高等学校アーチェリー選手権大会



轟かせ魂の鼓動北の大地へ大空へ

競技上の注意



【競技会場】	帯広の森陸上競技場
【個人表彰式】	帯広の森アイスアリーナ ホワイエ
【団体表彰式、閉会式】	帯広の森スポーツセンター

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
北海道高等学校体育連盟 北海道アーチェリー連盟

< 競技日程 >

日程	実施内容	時 間	摘 要
	8月8日(火)	10:30 ~ 12:00 ~ 13:30 14:00 ~ 15:30	受付開始 男子公式練習・女子用具服装検査 女子公式練習・男子用具服装検査
1 日 目	8月9日(水) 団体・個人 予選ラウンド	8:40 ~ 12:30 13:00 ~ 16:50 17:30 ~ 18:00	男子予選ラウンド (団体戦予選・個人戦決勝) 女子予選ラウンド (団体戦予選・個人戦決勝) 個人戦表彰式
2 日 目	8月10日(木) 団体戦 決勝ラウンド	8:40 ~ 9:25 9:40 ~ 10:25 10:35 ~ 11:05 11:15 ~ 11:45 12:20 ~ 12:45 12:55 ~ 13:20 13:30 ~ 13:55 14:05 ~ 14:30 15:30 ~ 16:20	女子1/8リミネーション(1回戦) 男子1/8リミネーション(1回戦) 男女1/4ファイナル(準々決勝戦) 男女セミファイナル(準決勝戦) 女子ブロンズメダルマッチ(3位決定戦) 男子ブロンズメダルマッチ(3位決定戦) 女子ゴールドメダルマッチ(優勝決定戦) 男子ゴールドメダルマッチ(優勝決定戦) 団体表彰式・閉会式

*タイムテーブルは予定時間のため、天候その他により変更することがあります。

< 競技規則 > (公社)全日本アーチェリー連盟競技規則および(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める大会運営規定により実施する。

< 大会運営規定 > (公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める服装規定により実施する。

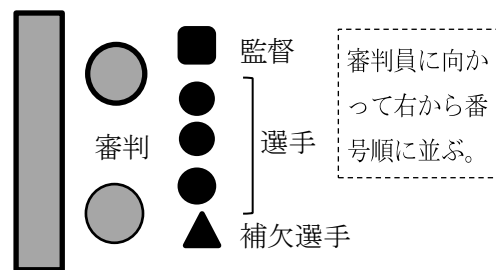
1 用具・服装検査

- (1) 用具服装検査は、指定した検査場で行う。(大会プログラム会場図参照)
- (2) 巻末の用具服装検査用紙を印刷し、予め必要事項を各選手が記入し検査時に持参すること。
- (3) 検査時には当該校の監督が立ち会い、学校単位で実施すること。
※ただし、男女とも監督を兼ねる場合は、引率教員が代行できる。その場合は、8月8日(火)に選手受付に申し出ること。
- (4) 公式練習・競技中も、用具および服装は検査継続の対象とする。
- (5) 検査時間は以下のように割り当てる。※時間は目安です。競技場内放送にて連絡します。

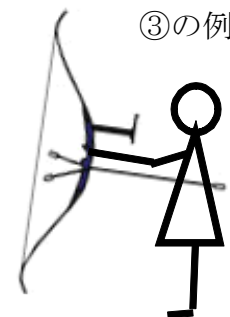
女 子		男 子	
時 間	的	時 間	的
12:00 ~ 12:20	1 ~ 15	14:00 ~ 14:20	1 ~ 15
12:20 ~ 12:40	16 ~ 30	14:20 ~ 14:40	16 ~ 30
12:40 ~ 13:00	31 ~ 48	14:40 ~ 15:00	31 ~ 48
13:00 ~ 13:30	調整(再検査)	15:00 ~ 15:30	調整(再検査)

(6) 実施方法

- ① A, B, C, D立に分けて行う。
- ② 右図のように整列し、検査を受けること。
(監督、補欠選手もユニフォームの検査を受ける)
- ③ 弓はフェイス面を審判員に向けて持ち上げる。
- ④ 以下の項目について検査を行う。



- a ゼッケン(予選用を背面に着用)とプログラム照合
- b ターゲットバッジの確認
- c IDカード、顧問登録証の確認
(顧問登録証の写真添付・外部監督は全日本アーチェリー連盟会員証)
- d 規定に適合したユニフォームとその着用状態
 - ・上衣・下衣の統一(上衣は長袖・半袖の混在可)
 - ・予備ユニフォームがある場合は必ず検査を受ける
 - ・監督の上衣は選手と同じものであること
 - ・アンダーウェア(色、ライン、メーカーロゴ等が同じであること。長袖、半袖の混在は可)
 - ・靴(スポーツに適した運動靴であること。監督も同様)
- e 弓・タブ(競技に適した安全なものか)
- f 矢(ノック、フェザー、ネーム等の統一…使用する全ての矢を審判員に預ける)
- g その他 スコープの検査は行わない



弓はフェイス面を審判員に向けて持ち上げる

- (7) 再検査 検査不合格の選手・チームに対して、以下の時間で再検査を行う。必ず監督が同伴すること。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ① 8月8日(火) 各種別検査の「調整(再検査)」時間内 | 場所: 用具服装検査場 |
| ② 8月9日(水) 男子 8:05 ~ 8:25 | 場所: 競技本部前 |
| 女子 12:25 ~ 12:45 | 場所: 競技本部前 |

2 公式練習について（男子 12:00～13:30、女子 14:00～15:30）

- (1) 標的は距離70m、122cm的を使用し、予選時の標的立ち順に従って行う。
- (2) 出場登録された選手のみを対象とする。
- (3) 監督・選手・補欠選手は競技時に使用する服装を着用し、選手・補欠選手は必ずゼッケンを装着し、監督は視認できる位置で「IDカード」を装着すること。
- (4) AB・CD矢取り、CD・AB矢取りの2立ち（3分）で実施する。
- (5) 監督、補欠選手はWWLまで立ち入る事ができる。

3 選手のエントリーと棄権について

- (1) 団体戦のエントリーは3名までとし、70Mラウンドの成績は3名の合計得点で決定する。決勝ラウンドは70Mラウンドに出場した3名で行射を行う。なお、参加申し込み後の選手・補欠選手の変更は認めない。
- (2) 団体戦70Mラウンドの選手交代、および選手の棄権等の届け出時間・場所は、以下の通りとする。

変更届出時間 (事前連絡)	<u>8月7日(月) 12:00までにメールにて行うこと</u> 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 事務局 杉浦 成利 宛 E-mail sugiura@takanishi.ed.jp
選手変更届 届出場所	選手変更届を <u>8月8日(火) 11:45までに競技本部に提出</u>

4 競技・行射方法について

- (1) 70Mラウンド団体戦・個人戦およびシュートオフ、順位の決定
 - ア 行射は1標的2名の2立ち(AB/CD)で、距離は70m、122cm的を使用し、3分6射ごとに採点および矢取りを行う。なお、選手が行射については、指定された行射位置とする。
 - イ 個人戦の成績順位は、70Mラウンドの得点で決定する。なお、団体戦出場者は、個人戦を兼ねるものとする。
 - ウ 団体戦の予選成績順位は、出場選手3名の個人得点合計で決定する。
 - エ 団体戦の予選通過チームは、男女とも上位16位までとする。
 - オ 競技前に練習を設ける。(AB・CD矢取り、CD・AB矢取り)
 - カ 用具破損等で審判へアピールするときは、シューティングライン上で挙手して審判員に知らせ、審判員の指示を仰ぐ。
 - キ 補充矢の行射は、3分6射2エンドまでとする。
 - ク 団体戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(16位)で同点が生じた場合には、フィールド中央に近いどちらのチームも使用していない標的を使用し、1チーム1標的で3射(各競技者1射)の得点によるシュートオフを行う。(制限時間30秒)
シュートオフが同点の場合、チーム内の中心に最も近い矢により決定する。これも同じならば、チーム内で2番目に中心に近い矢で、これも同じならば3番目に中心に近い矢で決定する。それでも順位が決まらない場合は、同様の方法で順位が決定するまで繰り返す。
 - ケ 70Mラウンドの得点が同点だった場合、順位は次のようにして決定する。
 - a 10点(インナー10を含む)の数の最も多いもの。
 - b X(インナー10)数の最も多いもの。
 - c a、bが同数の場合は同順位とする。

d 団体戦1／8イリミネーション（1回戦）における対戦表の位置を決めるとき、上記a、bによって決定する。それでも順位が決まらない場合は、ディスクトスによって順位を決定する。（ディスクトスは、競技本部前で行う）

コ 競技中、監督・補欠選手は、WWLまで立ち入ることができる。

(2) 団体戦決勝ラウンド

ア 距離は70m、122cm的を使用して行う。

イ 決勝ラウンドに出場するチームは、予選ラウンドで使用したゼッケンを背面に、団体戦決勝ラウンド用（予選通過順位）ゼッケンをクイパーに装着する。

ウ チーム内の選手の矢は、ノックやフェザーで容易に区別ができるようにする。

エ 1／8イリミネーション（1回戦）の競技開始前にのみ練習を設ける。（2分×2回）

オ 全対戦において1チーム1標的を使用する。

カ 各対戦の行射位置は、トーナメント表（P11参照）のとおりとする。

キ 対戦はセットシステム（1セット2分6射（3名×2射）4セットマッチ）で実施し、各セットの勝者は2ポイント、敗者は0ポイント、同点の場合は両者とも1ポイント、シュートオフの勝者は1ポイントを獲得する。5ポイント以上に達したチームは勝者となり次のラウンドに進む。

ク セミファイナル（準決勝）までの行射について

a ブザー2声で、1mライン後方で行射開始に備える。

※ムーブアップ(10秒)の間に1mラインを越えてはならない。

b ブザー1声で各チーム1選手がシューティングラインに入り行射を開始する。

c 全ての選手が行射を終えるか、制限時間が経過した時点でブザー3声が鳴り、矢取りと採点を行う。

d 3選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1セットに1選手2本以内を行射する。1セット6射の内、1名の競技者が2本の矢をすべて行射しなかった場合でも、行射しなかった矢はそのセットに含まれ、M（ミス）と採点する。

e 勝敗が決したら、代表者サイン後に後方の審判員から確認を受け、ポイントボード後方で勝者コールを受ける。

※審判員確認時点で計算ミス等が発覚し、勝敗が違っていても、スコアカードの記載内容が優先される。

f 団体戦決勝ラウンドの罰則規定は、巻末の『参考資料』の【団体戦の罰則規定について】による。

ケ ゴールドメダルマッチ（優勝決定戦）ブロンズメダルマッチ（3位決定戦）の行射について

※ ゴールドメダルマッチ（優勝決定戦）ブロンズメダルマッチ（3位決定戦）は動画配信（インハイTV）の予定があるため、出場する選手（チーム）のアンダーの色はユニフォームと同色もしくは白色とする（アンダーを着用する場合）。

a ゴールドメダルマッチ（優勝決定戦）ブロンズメダルマッチ（3位決定戦）は交互射ちのマッチ戦とする。

b 交互射ちの順番は、70Mラウンドの上位チームが決定する。

c 第2セット以降は、合計ポイントの低いチームが先攻となる。

d 各セット終了時に両者の合計ポイントが同点の場合は、第1セット先攻のチームが先攻となる。



決勝用ゼッケン装着例

- e 先攻するチームはブザー 2 声で、1 m ライン後方で行射開始に備える。
※ムーブアップ(10 秒)の間に 1 m ラインを超えてはならない。
 - f 先攻するチームはブザー 1 声で 1 番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始し、3 番目の選手が行射を終え 1 m ラインをまたぎ越した時にタイマーが止まる。
 - g 後攻のチームは 1 m ラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認してから、1 番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。3 番目の選手が行射を終え 1 m ラインをまたぎ越した時にタイマーが止まる。
 - h これ以降は自チームのタイマーが減算を始めたのを確認し、1 番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。
 - i セットの最終行射または行射時間が終了するとブザーが 3 声鳴り、エージェント（得点記録代行者）がスコアカードに記入、確認を行う。
 - j 3 選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1 度に 1 選手 1 本のみを行射する。1 セット 6 射の内、1 名の競技者が 2 本の矢をすべて行射しなかった場合でも、行射しなかった矢はそのセットに含まれ、M（ミス）と採点する。
- コ 用具破損によるロスタイムは認めない。（予備弓具の位置は WL と WWL の間とする。）
- サ 1 人の選手が行射終了後 1 m ライン後方に下がるまで次の選手は 1 m ラインを越えてはならない。
- シ チームの 3 選手全員が制限時間内に行射を終了しなければならない。
- ス 1 m ライン後方にいる選手は、スコープ等を用いて的中場所を確認し、行射中の選手に教示することができる。監督・補欠選手のうち 1 名はコーチボックスに入ることができ、選手に指示を与えることができる。その際、手持ちの双眼鏡または三脚付きスコープ等を使用することができる。（スコープ等はそれぞれ 1 つずつ持ち込むことができる）
- セ セミファイナル（準決勝）までの対戦で同点が生じた場合は、得点による 3 射 1 分(各競技者 1 射)のシュートオフ（1 分 3 射（3 名×1 射））により勝敗を決定する。シュートオフではチームの 3 選手が 1 射ずつ行射する。この場合も 1 名ずつシューティングラインに立ち行射する。3 射の合計点が同点の場合は、的の中心に最も近い矢を有するチームを勝者とする。これも同じならば、チーム内で 2 番目(または 3 番目)に近い矢を有するチームを勝者とする。これでも順位が決まらない場合、順位が決定するまで繰り返す。
- ソ ゴールドメダルマッチ（優勝決定戦）ブロンズメダルマッチ（3 位決定戦）でのシュートオフ（1 分 3 射（3 名×1 射））は、交互行射を行い、第 1 エンド目に先攻したチームが先に行射する。シュートオフには、その対戦で使用した標的を用いる。
- タ チームの監督・補欠選手のうち 1 名が、※コーチボックスに入ることができる。
（コーチボックスに入らない監督・補欠選手は、WWL まで立ち入ることができる。）
※審判員が選手の行為等に対して注意・指導を与える場合、コーチボックスに監督がいないときは、監督を通さずに直接選手又は補欠選手に行うこととする。

(3) 標的および競技者番号（ゼッケン）について

- ア 70M ラウンドでは、各選手はプログラムに記載された標的を使用する。
- イ 決勝ラウンドでは、70M ラウンドの順位により使用標的が決定する。
- ウ 各参加選手及び補欠選手は、配布されたゼッケンを必ず装着する。
- エ 予選通過チームには、予選用ゼッケンとは別に、決勝ラウンド用のゼッケンを配布する。
※ 決勝用ゼッケン配布は、団体戦決勝トーナメント開始前のチーム確認時に行う。

5 得点記録について

(1) 得点記録はスコアカード（70M ラウンド・決勝用）を使用し、同一標的を使用する全選手で行う。また、予選の得点は携帯端末を使用し入力した後、選手全員が確認して記録を送信する。

(2) 70M ラウンドの得点記録は、次の通り各々が分担して行う。

ア 矢を所有する競技者の指差し呼称（その際は矢には触れないよう注意すること）にしたがって、高い得点から順にスコアカードに記入する。

その標的の他の競技者は、得点入力・記入確認・的中確認を行う。

（インナー10はアルファベットの「X」を、0点はアルファベットの「M」を記入・入力する。）

イ 矢の所有者および他の同一標的を使用する他の選手が、それぞれを分担して得点確認を行い、確実に実施するものとする。

ウ 各選手はスコアカードと携帯端末の得点が入っていることを確認後、携帯端末から送信する。

エ 選手自身が関与する得点記録業務の内容は、他の選手の得点記録や順位に関する権利にも影響を及ぼす。それぞれが下記の順序のとおり分担業務を確実に行うこと。役割等を拒んだ場合は競技会への参加権利を失うものとする。虚偽が発生した場合は、当該選手または同一標的選手全員を失格とすることもある。

< 1 的 4 人 >

順序	得点記録の順序／業務分担	競技者 A	競技者 B	競技者 C	競技者 D
1	A の得点記録	<u>得点呼称</u> 記入確認	<u>復唱</u> スコアラー	<u>呼称確認</u> 端末入力	<u>的中確認</u> 入力確認
2	B の得点記録	<u>的中確認</u> 入力確認	<u>得点呼称</u> 記入確認	<u>復唱</u> スコアラー	<u>呼称確認</u> 端末入力
3	C の得点記録	<u>呼称確認</u> 端末入力	<u>的中確認</u> 入力確認	<u>得点呼称</u> 記入確認	<u>復唱</u> スコアラー
4	D の得点記録	<u>復唱</u> スコアラー	<u>呼称確認</u> 端末入力	<u>的中確認</u> 入力確認	<u>得点呼称</u> 記入確認
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記の無いよう確認をしっかりと行うこと。 ・スコアカードの間違いを防ぐため、記載の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は、<u>得点を復唱</u>する。 ・標的面の的中孔の全てに、<u>L字でチェック</u>する。 ・矢取りに関しては、矢の管理の観点から、<u>自分の矢は自分で抜くことを基本とする。</u> 				

< 1 的 3 人 >

順序	得点記録の順序／業務分担	競技者 A	競技者 B	競技者 D
1	A の得点記録	<u>得点呼称</u> 確認	<u>復唱</u> スコアラー	<u>呼称確認</u> 端末入力
2	B の得点記録	<u>的中確認</u> 端末入力	<u>得点呼称</u> 確認	<u>復唱</u> スコアラー
3	C の得点記録	<u>呼称確認</u> スコアラー	<u>的中確認</u> 端末入力	<u>得点呼称</u> 確認
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記の無いよう確認をしっかりと行うこと。 ・スコアカードの間違いを防ぐため、記載の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は、<u>得点を復唱</u>する。 ・標的面の的中孔の全てに、<u>L字でチェック</u>する。 ・矢取りに関しては、矢の管理の観点から、<u>自分の矢は自分で抜くことを基本とする。</u> 			

- (3) 得点記録(的中点数の判読・記載得点の復唱・誤記入等)に関し、異議があれば直ちに審判員の判定、訂正確認を求めることができる。
- (4) 的中点数の判定について、選手は次のとおり疑義を申し立てる権利がある。
- ア 得点の判読に対する自己確認または同一標的を使用する選手それぞれの立場で疑義が生じた場合、いずれからも審判員の判定を求めることができる。
 - イ 審判員により得点の判読が行われ、これが最終判定となる。
- (5) 選手は競技終了後、サイン(競技者、記録者)、合計点、10点数、X数を全て記入したスコアカードを提出しなければならない。主催者が間違いを発見した場合、その間違いは訂正され、その結果は有効とする。選手は自分のスコアカードに対して最終的な責任を有し、手書きのスコアカードが提出されていない、もしくは選手のサインがなく提出され、そのとき修正されていない場合は、その選手の記録は無効となる。
- (6) スコアカードに合計得点等が記入されないままサインし、記録本部に提出された場合は「記録なし(0点)」とする。
- (7) 決勝ラウンドの1/8イリミネーション(1回戦)からセミファイナル(準決勝)までのスコアカードへの記入及びポイントボードへのポイント表示は選手が行う。
- (8) 同一標的選手全員の得点記録業務が完了し、得点記入が終わったことを選手全員が確認するまで、矢・標的面・標的支柱等に一切触れてはならない。
- (9) スコアカードに記載された得点の訂正は、矢を抜き取る前に審判員を呼び、2本線で該当矢の訂正を行い、その的の全選手がサインし、審判員に確認してもらう。同じエンドで2回以上の訂正をする場合は、訂正欄がないため審判員に訂正してもらう。
- (10) 得点記録の分担業務を、各自が完全に履行すること。不注意による不履行でも「合意の違反行為」とみなされる。
- ア スコアカードに記載される各エンドのスコアが正確であることについて、各選手は競技者としての責任を負わなければならない。
 - イ 各々の分担業務遂行のため、選手名を聞き漏らさないこと。
 - ウ 誤りを防ぐために、用紙・選手名・記入上の確認を行うこと。
 - エ 得点記入した選手が復唱しない場合は、復唱を必ず要求すること。
 - オ 声量不足で聞き取れない場合は、再度の復唱と声量の要求をすること。
 - カ 得点呼称時に、必ず「自分のスコアカードの記入欄」であることを確認すること。
- (11) 得点記録業務において、次の場合には当該選手並びに同一標的を使用する選手全員の失格を宣言することができる。
- ア 自身の虚偽や不正申告の場合
 - イ 上記行為の合意・容認の場合
 - ウ 各厳守事項に対する不全・不履行の場合
- (12) 競技者自身が標的に行けない場合、審判員の許可を得てチームの監督、同じ標的の他の競技者またはその競技者の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる。

6 記録について

- (1) 記録の貼出しは行わず、得点集計システムを用いた電子配信のみとする。
- (2) 70Mラウンド終了後に行う記録の確認は、電子配信された確認記録一覧表による。
- ※確認記録に対する異議申し立ては、確認記録配信後10分間とする。
- (3) スコアカードの控えは、配信用ページをご確認ください。なお、スコアカードの控えの掲載は記録確定後となりますので、選手は記録確認用の控え(自身のスコアノート、写真など)を必ず記録しておくこと。

- (4) 決勝ラウンドは、各対戦終了毎の結果を表示する。
- (5) 確定記録は、本専門部 HP 上による電子配信とし、競技終了後、競技会場での配布は行わない。
また、予選ラウンドスコアカード及び団体決勝スコアカードの控えについては、配信用ページを参照ください。
- <配信先> (公財) 全国高体連アーチェリー専門部ホームページ「<http://www.zk-archery.org/>」

7 異議申し立てについて

得点記録以外の異議申し立てについては、いかなる場合も監督を通じて競技本部へ申し出、競技委員長、又は審判長の裁定をもって最終決定とする。その裁定を不服とする上訴委員会への提訴については、(公社) 全日本アーチェリー連盟競技規則に準じた手続きを取らなければならない。

8 ロストアローについて

- (1) 競技会場で行射により矢を紛失した場合は、審判員(競技会場)に必ず報告すること。
- (2) 競技会場で報告のない矢が見つかった場合は、その本数分の最高点を削除する可能性がある。

9 失格について

- (1) 選手の違反行為に対して
- 1 回目……………注意
 - 2 回目……………警告
 - 3 回目……………失格の処分とする。
- ただし、大会の秩序を著しく失墜混乱させる行為・スポーツマンシップに反する行為等については、1 回目での失格もあり得る。
- (2) 監督の違反行為についても同様であるが、特に以下の事項に注意すること。
- ア 喫煙については所定の場所以外では厳禁のこと。
 - イ その他、「競技規則」や「総体参加心得」に反する行為とみなされた場合は、競技場への立ち入りを制限する。

1.1 競技場について

- (1) 監督・選手・補欠選手には、「IDカード」を配布するので、大会期間中、競技場内に入場する場合は必ず装着すること。(引率のみの先生は入場できません)
- (2) 使用する弓具はWLの後方に整頓して置く。(弓の一部がWLからはみ出さないようにする)
- (3) 携帯電話等は音の出ない設定にする、もしくは電源を切ること。また、写真撮影などによるフラッシュは禁止とする。
- (4) インターハイ会場内における無断撮影・録画および無断録音を禁止する。ただし、個人的な利用が目的で、インターネット等で配信するなど第三者に公開することがない場合には許可する。その場合でも、肖像権や著作権を侵害することがあるので、利用者の責任において行うこと。

1.2 個人戦表彰式・団体戦表彰式および閉会式について

個人戦・団体戦表彰式および閉会式には、入賞した全選手・補欠選手(団体戦)が参加すること。

13 スコアカード

(1) 70M ラウンド用スコアカード

ア スコアカードは70M ラウンド練習前に配布されるので、選手はクィーバーに入れている矢の本数の記入と記入内容が正しいことを確認すること。

イ 得点記入は上の欄から記入する。

ウ 36射終了時に、必要事項（サイン（競技者・記録者）、合計点、10点数、X点数）の記入を忘れないこと。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。

エ クィーバーの矢の本数の記入と、競技終了後の本数確認を確実にすること。

オ スコアカードの控えは、配信用ページをご確認ください。なお、スコアカードの控えの掲載は記録確定後となりますので、選手は記録確認用の控え（自身のスコアノート、写真など）を必ず記録しておくこと。



令和5年度全国高等学校総合体育大会 高円宮賜牌
第56回全国高等学校アーチェリー選手権大会
北海道帯広市
帯広の森陸上競技場

矢の本数

選手名:	氏名	フリガナ	ゼッケン No
所属先:	略称	正式名称	R 70

70m-1	セッション:1			小計		累計		10+X	X
	1	2	3						
1	X	X	8	28	X			2	2
	8	8	7	23	51	51			
2	X	10	9 10	30 30	A B C			2	3
	9	8	8	25	54	105			
3	9	8	8	25	X				
	7	7	7	21	46	151			
4	10	8	7	25	X			1	
	6	5	3	14 15	39	190			
5	9	8	8	25	X				
	8	7	6	21	46	236			
6	10	10	9	29	A B C			2	
	8	8	4 5	20	49	285			
総計					285	7	3		

○○ ◎◎

選手サイン

<< x

記録者サイン

(2) 団体戦決勝ラウンド用スコアカード

ア スコアカードは各対戦前に配布される。必要事項を記入し開始時に担当審判に提出する。

(選手は的番号・競技者番号・学校名を記入する。)

イ スコアカードは1対戦(2チーム)に1枚で記入する。

ウ 選手は6射ごとに記録し、集計用携帯端末に入力する。

エ 対戦終了後に選手サインを忘れないこと。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。

オ スコアカードの控えは、配信用ページをご確認ください。

令和5年度全国高等学校総合体育大会 高円宮賜牌 第56回全国高等学校アーチェリー選手権大会
北海道帯広市
帯広の森陸上競技場

所属先: 略称 正式名称 予選順位

部門/カテゴリー: リカブ男子/女子 的番号 No

所属先: 略称 正式名称 予選順位

部門/カテゴリー: リカブ男子/女子 的番号 No

<input type="checkbox"/> 勝者(レ付ける)		対戦名										
		1	2	3	4	5	6	セット小計	セット外	セット外	セット外	
1		9	9	8	8	7	7	48	2	1	0	0
2		10	9	8	8	8	7	50	2	1	0	2
3		10	9	9	8	8	7	51	2	1	0	2
4		10	9	9	9	8	7	52	2	1	0	4
総計											4	

同点時は的の中心に近い方に付く

<input checked="" type="checkbox"/> 勝者(レ付ける)		対戦名										
		1	2	3	4	5	6	セット小計	セット外	セット外	セット外	
1		10	10	9	8	8	8	53	2	1	0	2
2		9	9	8	8	7	7	48	2	1	0	2
3		10	9	9	9	8	7	52	2	1	0	4
4		10	9	8	8	8	7	50	2	1	0	4
総計											5	

同点時は的の中心に近い方に付く

選手サイン A

選手サイン B

審判の時間 (HH:MM)

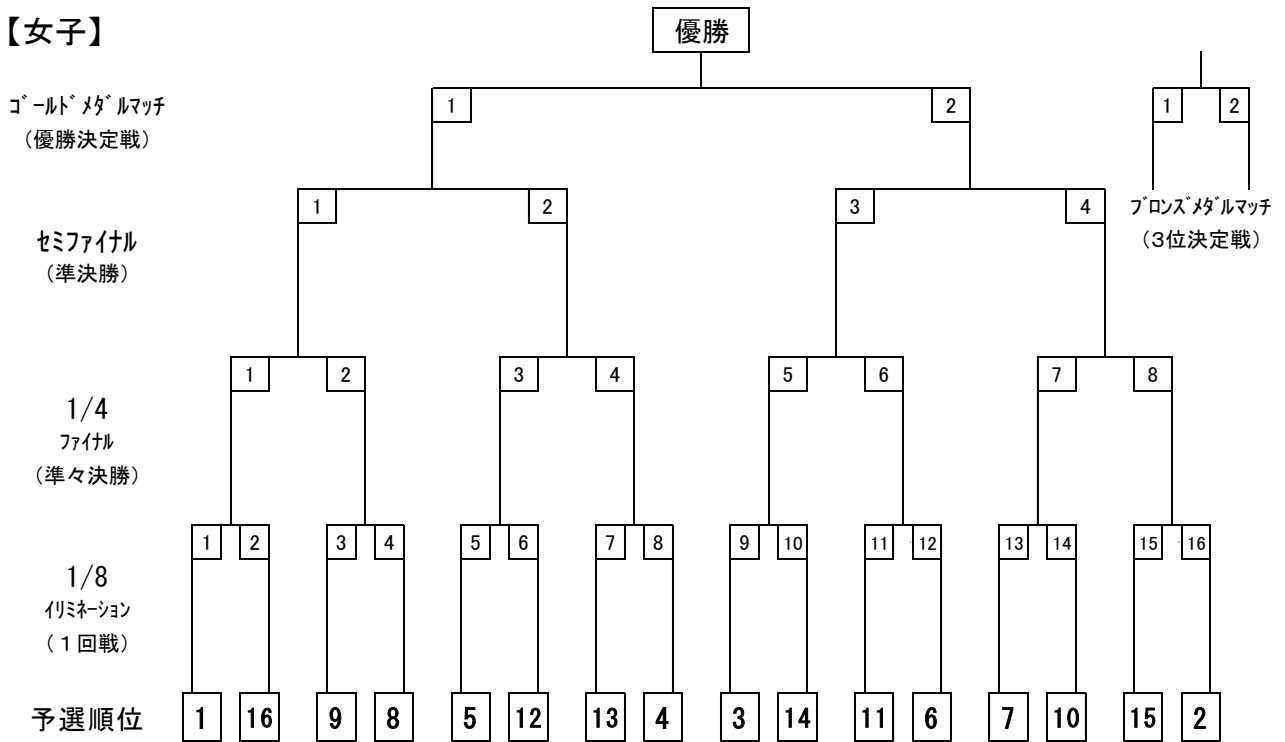
審判注記

団体戦決勝トーナメント表

※ □内の数字は標的番号を表す。

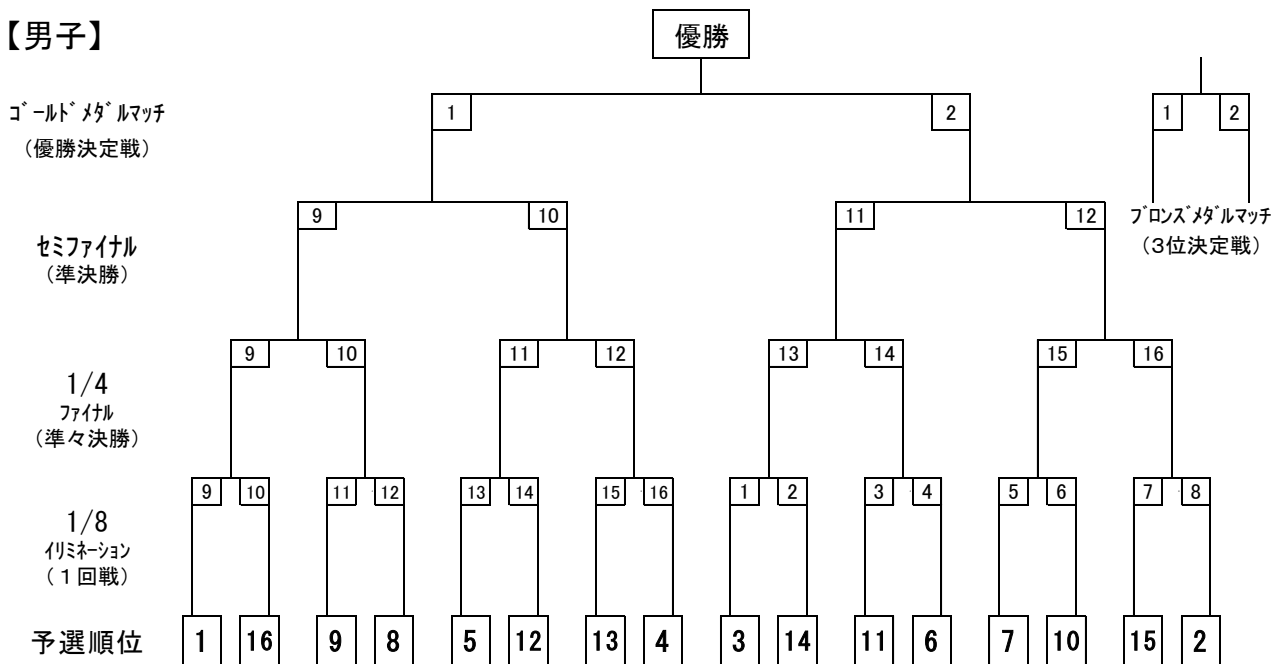
※ 左右の立ち位置は、トーナメント表通りとする。

【女子】



※トーナメント表内の数字は標的番号

【男子】



※トーナメント表内の数字は標的番号

『参考資料』

【団体戦の罰則規定について】

1 1 mラインを越えるのが早すぎたとき。

『規則』 1名の選手しか1 mラインを越えてはならない。

事例：1 mライン以内に複数の選手が立ち入ったとき。

対応：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

2 クィーバーから矢を早く抜きすぎたとき。

『規則』 シューティングラインをまたいで立つまではクィーバーから矢を取り出してはならない。

対応：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

3 決められた本数以上の矢を射ったとき。(時間外発射を含む)

事例①：1人の選手が3本行射した。(1回戦から準決勝の場合)

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

事例②：制限時間を過ぎて矢を発射した。

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

《付記》選手は、その選手のものであるとはっきり識別できる矢を使わなければならない。

審判員が一目見て、3選手がそれぞれ2射しか発射していないことが確認できるように、各選手はチーム内の他の選手とは明らかに違った、ノック・フェザー・クレストを使用すること。

4 コーチボックス内にいる者が、コーチボックスから出たとき。

『規則』 監督は、選手が行射中は、コーチボックスの中かダブルウェティングライン後方にいなければならない。

1回目の違反 → 対応：審判は、コーチボックスを指す。

2回目の違反 → 対応：その対戦中、コーチボックスから退去させる。

3回目の違反 → 対応：その日の競技終了まで競技場への立ち入りを禁止する。

5 行射開始の合図以前に1 mラインを越えたとき。

『規則』 全ての団体戦は、1 mライン後方に待機した状態で始まる。

事例①：選手がブザー2声(ムーブアップ)で1 mラインを越え、シューティングラインに移動した。

対応：小さな違反として対処する。

内容：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

警告を無視して行射を続けた場合、レッドカードが出され、そのエンドの最高得点が削除。

《付記》対戦相手の行射を妨害、誹謗するようなかけ声、虚偽の得点の発声等による錯乱・虚勢行為は、競技者としてはあるまじき行為である。相手の立場を尊重するフェアプレーの精神で、真摯な競技態度であることを望む。この点については、各監督に徹底して事前指導を要望する。また、競技場外(応援席等)の応援者から同様の行為があった場合は、競技場内への立ち入りを禁止するなどの対処を行うことがある。

用具服装検査用紙

* 選手は太枠内のみ記入してください。(種別、種目は○でかこむ)

	種別	種 目	都道府県名	学 校 名	
	男子 ・ 女子	団体 ・ 個人		学校	
	ゼッケン	—	—	—	
	選手名				
服 装	1	ゼッケン			
	2	上 衣			
	3	下 衣			
	4	シューズ			
	5	ソックス			
	6	帽 子			
	7	監督などの服装 (上衣、運動靴)		補欠選手の服装 (上・下衣、その他)	
		予備など			
用 具	8	ハンドル			
	9	リ ム			
	10	サイトピン			
	17	弦			
	13	タ ブ			
	14	矢の本数(6本以上)			
	15	矢の同型・同色			
	16	矢のネーミング			
	予備など				
	検査結果(○ ×)				